平成18年度 第2回
札幌市環境影響評価審議会

議 事 録

日 時 : 平成19年3月28日(水) 14時~17時
場 所 : 札幌エルプラザ 2F 環境研修室

札幌市環境局

1. 開 会

黒河課長 それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成18年度第2回札幌市環境影響評価審議会を開催いたします。

本日は、古市委員、それから中井委員の2名の方から欠席する旨のご連絡がございました。また、丸山委員につきましては、他用務のため遅参する旨の連絡を受けてございます。

現在の出席委員は12名で、15名の過半数に達してございますので、札幌市環境影響評価審議会規則第4条第3項に基づきまして、この会議が成立していることをご報告いたします。

まず初めに、環境局中西理事の方からごあいさつを申し上げます。

中西理事 札幌市環境局の中西でございます。

環境影響評価審議会の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

皆様には、年度末の大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

本日は、北部事業予定地最終処分場事業環境影響評価に関するご質問をさせていただき、また、環境影響評価方法書に関するご審議をお願いする予定でございます。

本案件の現状状況、あるいは事業内容等につきましては後ほどご説明を申し上げますが、札幌市としては、北海道新幹線に続く環境影響評価法に基づく案件でございます。最終処分場の新設事業としては初めてでございます。法に基づく案件でございますことから、札幌市長として環境保全の観点からの意見を知事へ提出しなければなりません。方法書の段階で調査、予測、評価の手法について十分な議論がなされることが環境アセスメントの運用の上で大変大事なことであると考えております。つきましては、市長意見の形成に当たりまして、忌憚のないご意見を賜りたいと存じておりますので、ご審議のほどを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、本日のあいさつにかえさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 諮問書手交

黒河課長 それでは、早速でございますけれども、(仮称)北部事業予定地一般廃棄物最終処分事業場にかかわります審議をお願いするに当たりまして、札幌市長からの諮問書を、中西より村野会長の方に手交させていただきます。

中西理事 「(仮称)北部事業予定地一般廃棄物最終処分場事業に係る環境影響評価について(諮問)」

このことについて、環境の保全の見地からご審議いただきたく、札幌市環境影響評価条例の規定により諮問いたします」。

どうぞよろしくお願いいたします。

〔諮問書手交〕

黒河課長 それでは、議事に入ります前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

まず、会次第が一番上にございます。次に、資料1といたしまして、ただいま中西より会長の方に手交させていただきました諮問書の写しを準備してございます。資料2としまして、これはA4の横1枚物でございますが、本案件の検討スケジュール(予定)というものがございます。それから、資料3といたしまして、本日ご持参をいただいていると思いますが、環境影響評価の方法書でございます。もしお忘れの方がございましたら、予備を用意してございますので、お申しつけください。そのほかに、参考資料といたしまして、今回、法の案件でございますので、環境アセスメント制度という青い環境省のパンフレットを参考として用意させていただきました。それから、後ほどご説明を申し上げますけれども、法アセスの方法書作成に当たりましては、環境省の主務省令に沿った方法書の作成になります。そういうこともございまして、埋立地にかかわります環境省の主務省令のコピーを用意させていただいております。そのほかに、席表、委員名簿を用意させていただきました。最後に、後ほど事業者の方から方法書の内容についてパワーポイントにて説明がございしますが、そのパワーポイントの資料が、お手元に届いているかなと思います。

資料の方は、落丁ございませんでしょうか。

よろしければ、これより議事の方に入りたいと思います。

議事の進行を、村野会長にお願いしたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

3. 議 事

村野会長 村野です。どうぞよろしく願いします。

それでは、初めての案件でありますし、先ほど諮問もありましたので、案件の概要及びその検討について、事務局から説明をしていただきたいと思います。その後、環境影響評価方法書の内容について、事業者である札幌市環境局から説明をしていただきたいと思います。よろしく願いします。

黒河課長 会長よりご指示がございましたので、私の方から、(仮称)北部事業予定地一般廃棄物最終処分場事業の概要の説明と、今回は法のアセスでございますので、法のアセスに基づく環境アセスメントの検討について、15分ほどでご説明を申し上げます。

まず、事業者が示した事業の目的、背景でございます。

お手元の方法書のページ2-1をごらんください。

ページ2-1の下段の方になりますけれども、今後とも札幌市の人口は穏やかながら増加が見込まれ、生活様式の多様化等を考えると、さらにごみ量が増加するものと予想される。これに対し、ごみ減量、リサイクルを可能な限り進めるものの、最後に残る残渣や燃やせないごみなどは最終処分する必要がある、最終処分場は重要で不可欠な施設である。最終処分場は、現在、札幌市東側の山本処理場と市の西側にある山口処理場の2カ所でございますけれども、山本処理場の埋め立て容量が残りわずかであり、これに続く処分場整備が急務となっている。したがって、山本処理場の後継地として、新たに最終処分場を計

画するものであるとさせていただきます。

次に、事業の概要でございますが、隣のページの2 - 2をごらんください。

今回の処分場は、今、若干触れましたけれども、札幌市が燃やせないごみ、それから焼却残渣等を埋め立て処分するものであります。

場所は、札幌市東区中沼町の市街化調整区域、処分場全体の敷地面積は49.5ヘクタール、埋め立て面積は投影面積で25.4ヘクタールであります。埋め立て容量は236万8,000立方メートルで、約9年かけて埋め立てるとの予定が示されてございます。

次に、適用される環境アセスメントについてご説明いたします。

今回の案件につきましては、環境影響評価法が適用されます。以下、法アセスと略称させていただきますが、これにより手続が進められることとなりますので、法アセスの説明を少々いたします。

法アセスにつきましては、事業規模に応じまして、必ず環境アセスメントを実施する第1種事業と、許認可権者がアセスメントが必要かどうかを判断する第2種事業の2種類ございます。その第2種事業で環境アセスメントが必要と判断されるケースとしましては、具体的には、例えば石炭だきの火力発電所のように、大気汚染物質を大量に生じるような燃料を使う発電所をつくるようなケースや、地域の状況ですね。例えば猛禽類の営巣が確認されている地域でのダム工事のような場合には環境アセスメントをすべきであるというような考えが示されてございます。

今回の案件の規模につきましては、2種事業でございますけれども、当該事業予定地の北西約1キロメートルのところに篠路福移湿地があり、準絶滅危惧種であるカラカネイトトンボが生育していることをNPO法人カラカネイトトンボを守る会が確認しているということから、事業者みずから環境アセスメントを実施することを今回決定してございます。

直近のアセスメントにかかわる手続の経過でございますけれども、資料2の手続スケジュールをごらんください。

まず、本案件の事業者でございますが、事業実施者は札幌市長、担当部局は環境局環境事業部でございます。それから、許認可権者は札幌市長、担当は同じく環境局環境事業部の事業廃棄物課という許認可を扱っているところになります。

昨年の11月に、事業者である札幌市長は、許認可権者でございます札幌市長に対して、環境アセスメントを行う旨の通知を行いました。本年の2月になりまして、事業者は方法書を道知事、それから環境アセスメントを所管する札幌市長、事務局になります私どもの方に送付をしてございます。

その後、2月9日から3月8日まで方法書が縦覧に供されてございまして、市民からの意見募集は2月9日から1カ月半ということで3月22日まで募集がなされてございます。この間、東区、北区の今回の予定地域に近い町内会に対しては、事業者の方から住民説明会が開催されてございます。

次に、方法書にかかわる手続についてご説明をいたします。

法アセスにつきましては、事業の種類ごとに所管省庁が違いますので、方法書作成のためのガイドラインが主務省令の形で定められておりまして、今回は環境省令に基づいて方法書が作成されてございます。

お手元の参考資料として、環境省の主務省令のコピーを用意させていただきました。

内容については、今回は割愛させていただきます。

方法書の趣旨でございますけれども、法によりますと、事業者は対象事業にかかわる環境影響評価を行う方法、調査、予測、評価にかかわるものに限るにつきまして、主務省令で定めるところにより、次に掲げる事項を記載した環境影響評価方法書を作成しなければならないとしております。その次に掲げる事項と申しますのは、事業者の氏名、住所、それから対象事業の目的、内容、対象事業が実施される区域とその周囲の状況、最後に対象事業にかかわる環境影響評価の項目並びに調査、予測、評価の手法の四つでございます。方法書の内容についての意見はこの範囲に関して、つまり、調査、予測、評価の方法に関してということになってまいります。

今回の方法書における市長意見の位置づけ、それから方法書段階で本審議会にかけさせていただいた理由でございますけれども、法アセスにおきましては、市長意見は道知事に送付され、その後、知事が市長意見を勘案して知事意見を作成し、事業者に送付するという流れになってございます。準備書に関しましては、市長意見はこの審議会を経ることが条例上定まっておりますけれども、方法書に対する市長意見の形成は特に定めがございませんでした。したがって、過去に手がけました北海道新幹線、真駒内滝野霊園の案件、それから、昨年、精力的にご審議をいただきました屯田・茨戸通、これらの各案件におきましては方法書段階の審議はいたしませんでした。

このことにつきまして、過去に、準備書段階における調査不足が幾つか指摘されるなど、方法書の段階から審議会の委員の意見を反映できるようにすることがアセスメントの実践、実効性を向上させる上で肝要であるという強いご指摘を再三いただいてまいりました。事務局といたしましても、これを踏まえまして、条例に定める諮問を従来より大きく前倒しいたしまして、方法書が提出された段階で、今回、審議会に諮問をさせていただいたものでございます。

方法書の詳細、内容につきましては、この後、事業者から説明がございまして、調査、予測、評価に係る手法につきまして、委員の皆様のご意見をちょうだいしたいと存じております。

それから、本日は、あと3点ほどご意見をちょうだいしたいことがございます。

資料2のスケジュールですが、これは、実は最短のスケジュールを示させていただいたものでございます。通常どおりに流れていきますと、早ければ5月の連休明けかその前後ぐらいに道知事から方法書に関する市長意見を求めてくるものと想定してございます。猶予としては、1月から1年半程度が与えられると聞いてございます。したがって、方法書に対する審議会としての意見を、道の手続の進みぐあいにもよりますが、早ければ5

月の下旬ぐらいまでにはいただくスケジュールで臨まなければなりません。事務局の方では、その後、庁内関係部局の意見も含めて市長意見を形成し、知事に送付することになります。

そこで、先ほど3点と申し上げましたが、まず、本審議会の意見をどのような形態でいただくのがよろしいか、それから、ご意見を形成していくに当たりまして部会の設置が必要であるかどうか、ご指示をいただきたいと思っております。それから、本件につきましては、市街化調整区域におきまして約50ヘクタールの大きな面積を改変するものでございます。つきましては、現地視察が必要かなというふうに私どもは考えてございますので、その実施の是非と実施時期につきましてもあわせて審議の最後にお考えをちょうだいできればと思っております。よろしく願いいたします。

補足的になりますが、一般的に想定されるスケジュールを当てはめると、平成22年ごろには準備書が提出される運びになろうかなというふうに考えてございます。

また、法アセスにおきましては、行政や市民の意見を評価書にどの程度反映させるか、それは事業者の裁量にゆだねる部分でございますけれども、法の第33条でまいりますと、許認可権者は評価書に意見が十分反映されていないと判断した場合、法の定めるところにより、免許等を拒否する処分を行え、または当該免許に必要な条件を付することができるものとされてございます。

ちなみに、私どもの所管しております市条例でまいりますと、市民や市長の意見について、市長は許認可権者にその意見を勧告するよう要請するにとどまるものであります。

以上を申し添えたいと思います。

最後になりますが、この審議会の方法書に対する審議の日程でございますが、今回、法アセスの事務的な窓口は北海道でございますので、条例アセスも日程的にかなりタイトでございます。その点、委員の皆様には、年度明けの非常にお忙しい中にご無理を申し上げますが、ご容赦いただきたく、よろしく願いいたします。

続きまして、事業者である環境局環境事業部から、方法書の内容について説明を受けます。

それでは、事業者の方、お願いいたします。

事業者（小川課長） 本日、審議会の皆様には、大変お忙しい中、貴重な時間をちょうだいいたしまして、まことにありがとうございます。

私は、環境事業部施設管理課長の小川と申します。どうぞよろしく願いいたします。

では、私の方から、説明に先立ちまして、事業者としてのメンバーを紹介させていただきたいと思っております。

私どもの施設担当部長の小林でございます。

それから、左隣が、施設管理課施設計画係長の村田です。

それから、調査担当係長の大竹でございます。

早速ですが、まず、小林の方から、事業概要についてご説明をしたいと思いますので、

よろしく申し上げます。

事業者（小林部長） 環境局環境事業部施設担当部長の小林と申します。

今回の最終処分場事業の所管をさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、（仮称）北部事業予定地の概要についてご説明をさせていただきます。

本市では、一昨年4月に、一般廃棄物処理基本計画、さっぽろごみプラン21の見直しを行いますため、札幌市廃棄物減量等推進審議会に対しまして、計画改定の方向性等について諮問をいたしました。この答申を受ける予定になっておりまして、今後、この答申を踏まえまして、平成19年度にはごみプランの改定を行い、新たな施策によりますますさらなるごみの減量とリサイクル、そして最終処分場の延命化を図る計画となっております。

本市では、これまでも埋立地の延命化を図りますために、ごみの減量リサイクルを進めますほか、可燃ごみの焼却、粗大ごみの破碎処理を行いまして、埋め立てる量をできるだけ減らすとともに、平成16年度からは、埋立地に監視員、ごみGメンを配置いたしまして、埋立地への不適物の搬入を防止する対策などを実施してございます。

しかしながら、ごみの減量リサイクルを可能な限り進めましても、最後に残ります燃やせないごみ、焼却残渣などは、どうしても埋立地で適正に最終処分をする必要がございます。現在、札幌市では、この燃やせないごみ、焼却残渣等を合わせまして、年間約20万トンの廃棄物を埋め立て処理してございます。

これらは、厚別区、白石区にまたがります山本処理場、それから手稲区にございます山口処理場の2カ所で埋め立て処分を行っております。しかし、これら埋立地の寿命は、残り16年分程度という状況でございます。このうちの山本処理場につきましては、あと10年程度という見込みとなっております。このような状況の中、市内の地形とか土地利用状況等から、平成8年に今回の（仮称）北部事業予定地を次期埋め立て候補地と選定したものでございます。これによりまして、将来の山本処理場閉鎖後の札幌市の廃棄物の処分体制を何とか確保したいというふうを考えてございます。

具体的な計画の内容につきましては、担当の課長、係長から説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

事業者（小川課長） それでは、私の方から、（仮称）北部事業予定地の選定理由等につきましてご説明したいと思います。

（仮称）北部事業予定地につきましては、次期埋め立て候補地として、環状夢のグリーンベルト構想に基づく公園化事業の基盤造成を兼ねた埋め立て予定地として、平成8年度に市内全域で13カ所の候補地の中から4カ所を絞り込みまして、その後、自然環境等の概況調査を実施し、当該地を選定しております。

選定理由としては4点ほど挙げられますが、1点目につきましては、当該事業については、現在は環境省になっていますが、当時としては厚生省の国庫補助事業として実施する事業ということで、補助対象事業の規準として構造指針 現在は性能指針という規準に変わっておりますが、これに基づいて実施するというふうになってございます。

この中で、埋立地を計画する場合には、埋め立て期間、一定の規模が必要なものですから、10年から15年程度を目標とするというふうにされております。これを考慮すると、最低でも30ヘクタール以上の用地確保、かつ埋め立て容量で200万立米以上の確保が必要になります。もう一点につきましては、自然公園領域及び計画地、鳥獣保護区、あるいは特別鳥獣保護区などの規制区域に該当しない。もう一点につきましては、土地利用状況でできるだけ学校、病院、住宅地に隣接していないこと。その他、もう一点としまして、用地確保及び事業実施に向けまして大きな支障となることがないこと。いわゆる事業用地の中に移転不可能な事業主等々がない、あるいは用地の取得不可能な、いわゆる多重債務等の抵当権が設定されるなどで用地取得が困難であるということ。そのほか、事業用地内に動植物等の貴重種が見られないこと。こういうことを種々検討いたしまして、これから説明いたします（仮称）北部事業予定地を選定してございます。

当該地につきましては、約900からなる現状有姿分譲が主になっております。それで、用地取得につきましては長期間の時間がかかるということが当時から想定されておりました。そのため、用地取得については順次進めてまいりまして、現状有姿分譲については、ほぼ九十数パーセント用地取得がなっております。

また、これまでグリーンベルト構想の事例としましては、このほか札幌市としては、皆様ご存じのモエレ沼公園が既にオープンし、さきの埋め立て処理場がモエレ沼公園となっております。

それから、現在は、山口処理場の埋め立て跡地ということで公園整備中でございます。

今後は、当該事業を進めるに当たりまして、周辺環境を調査し、事業の適正を含めた詳細検討を進めることが必要であるということで、これには法律で定められた環境影響評価法に基づいて詳細調査を実施し、科学的な知見から検討を進める必要がございます。

先ほど小林の方からも申し上げましたように、既存の山本処理場の寿命につきましては、今後10年程度の見込みでございます。当該事業、いわゆる埋め立て事業につきましては、環境影響評価に5年、その後、造成等に約5年等を要し、都合10年はかかるということで、決して余裕のある状況下にはないということでございます。

つきましては、今年度から環境影響評価を進めていくということで、約5年程度の期間をかけて実施する予定でございます。

それでは、方法書の概要につきまして、若干の時間をちょうだいいたしまして、村田の方から説明させていただきます。よろしく願いいたします。

事業者（村田係長） 私は、施設計画係長の村田と申します。

私の方から、埋立地が実際にどういう形のものかということと、方法書の概要についてご説明差し上げたいと思います。

まず最初に、現在、私どもで考えておりますアセスのスケジュールですが、先ほど事務局の方からご説明もありましたけれども、平成18年度に方法書を実際に作成しております、住民意見、知事意見、市長意見をいただくという段階でございます。やっと始まっ

たばかりという状況でございます。

その後、項目、手法等を選定いたしまして、平成19年度に、実際の現地調査を行いたいと考えております。実際、現地調査を行うのは、19年度の秋ぐらいからということで予定しております。

調査自体は、今の段階では約2年間ぐらいを想定しておりまして、その後、予測評価を行うという状況でございます。

その後、2年ほどかかりまして、これも最短でということになると思うのですが、平成22年度ぐらいに準備書、評価書という形で現状では考えています。

事業の目的ですが、こちらは今、うちの課長の方からご説明があったとおり、かなりの量のごみ減量を進めていくのですが、どうしても埋めなければならないものが残ることがございまして、埋め立て処分場は必要だということでございます。我々も、一時期は30万トン以上を埋めていたごみを、ごみGメンなど、適正なごみ埋め立てをすることで排出しまして、今は20万トンぐらいまで埋め立て量を減らしておりますが、それでも最後に残るものは埋め立てなければならないということがございますので、埋め立て処分場は必要だということが書かれております。

あとは、先ほどもご説明があったとおり、現状は2カ所で埋め立てを行っておりますが、山本処理場の寿命は残り10年ぐらいということで、アセスの期間が約5年と、その後、造成等にあと5年ぐらいかかるものですから、合計で10年ぐらい必要となっておりますので、決して余裕のある状況ではないということでございます。

事業地域の位置ですが、モエレ沼公園のちょうど北側に当たる赤線のところが事業区域でございます。篠路清掃工場のちょうど南側に位置してございまして、札幌市東区中沼というところで計画をしております。

事業の内容ですが、名称は、(仮称)北部事業予定地一般廃棄物最終処分場、事業者につきましては札幌市ということでございます。事業の内容ですが、一般廃棄物最終処分場の設置、それから、埋め立て対象物は不燃ごみと焼却残渣でございます。

埋め立て容量ですが、236万8,000立方メートルで、そのうち廃棄物容量が182万8,000立方メートルです。こちらは、器をつくって、全部ごみを埋め立てるわけではございませんで、一定程度、ごみを埋めたら、その後に土をかぶせて覆土をすることが必要でございます。ですから、覆土の土の量を除いた分が廃棄物の量ということございまして、182万8,000というのが実際にごみを埋められる容量でございます。

それから、事業の実施区域ですが、こちらは49万5,000平方メートル、約49.5ヘクタールありますけれども、こちらにも実際に埋め立てられる面は約半分になりまして、25万4,000平方メートルです。これは、敷地外に影響を与えないために緩衝地帯をかなり取る計画でございます。約50メートルぐらい、敷地境界から緩衝地帯をとるものですから、実際に埋め立てできる面積は半分ぐらいというふうに考えております。

それから、埋め立て年数は約9年間です。これは、今、山本に入っている埋め立てのトン数は年間約16万トンで、これがそのまま埋め立てられると約9年ということで考えております。

それから、埋め立て方式ですが、準好気性の埋め立て方式、平地層状埋立方式です。具体的には、これは断面図ですが、四方に土で堰堤をつくりまして、その上に水が漏れないように、赤い色で示した遮水シートを敷きまして、大きなプールのようなものをつくり、その中にごみを埋めていくという形になります。

それで、この緑色のところに廃棄物を埋めます。ごみの層を1.5メートル埋めると50センチほど覆土しまして、さらに1.5メートル埋めて50センチぐらい覆土する、これが1層になります。この1層を3段にします。1層4メートルぐらいですから、合計12メートルになります。最終的には一番下から一番高いところまで12メートルぐらいの高さになる計画でございます。

一応、地盤自体が軟弱な場合は、埋め立て終わった段階で地盤沈下が起きないように、最初に基盤を強化します。俗にプレロードと言うのですが、つくる前に土を盛って基盤を強化するという構造規準になっております。一定程度基盤を強化してから、こういう構造物をつくっていくということです。

言い忘れましたが、うちの埋立地につきましては、一切掘り込まず、GLから上に積んでいくという構造になります。

それから、降った雨については、当然、ここに遮水シートを敷いていますので、対外的には漏れてはいきません。降った雨は、ごみを經由しまして、最近では中にためないという構造で、降ってもすぐにポンプアップして処理をするという状況になります。結果的に、この雨水を埋立地内のごみ槽にためると、それだけ水腐れを起し、結果的には、においやガスが発生するということになりますので、降ったものはすぐにポンプでくみ上げて、この層の中には極力水をためないというのが現状のシステムとなっています。

それから、これは下のシート面を詳しく見た状況でございます。

シートについては、今、実物をお返ししますので、それも見ていただきたいと思います。現在、構造上、遮水シートは2重シートというふうに決められております。平成10年以降に構造指針が変わりまして、2重に下さいということになっております。この赤いところが、その2重シートのライナーになっております。

もっと詳しく言いますと、粗造成が終わった後に、保護マットと言いまして、15ミリぐらいのフェルトのようなマットを下に敷きまして、その後に遮水シートを敷設していきます。その後、保護砂を500ぐらいまきまして、その後、さらに遮水シートの2順目を敷きます。その後、さらに15ミリの保護マットを敷いて、その上でさらに保護砂を500ぐらい敷設します。その上にやっにごみを埋められるという状況です。まず基盤を丈夫にするということで相当時間がかかって、なおかつ、都合五、六層になるような敷設をするものですから、造成には全部で5年ぐらい必要な状況になっております。

これが、埋め終わったときのイメージ図でございます。ちょっとわかりにくい部分もあると思いますが、外側の部分が約50ヘクタールです。この中側の部分に埋め立てを行うということでございまして、これが約25.4ヘクタールでございます。

先ほど言った緩衝地帯ですが、ここからこの部分に約50メートルほど緩衝地帯をとるということで計画しております。

それから、施設の搬入路の計画についてです。入ろうと思えばどこからでも入れるのですけれども、車両等の騒音・振動等を考えますと、今、このすぐ裏に篠路清掃工場がございまして、こちらの搬入路を使って入ってこようということを計画しております。

それから、埋立地内に降った雨を浸出水と言いますが、それについては、周りの排水に放流するのではなくて、下水管が篠路清掃工場まで来ておりますので、そこに接続します。ですから、ここで降った汚水については拓北の下水処理場で処理するという形で計画しております。

あとは、景観を考えまして、敷地境界の周りには植樹等を行おうと考えております。

そういうことをここに書いてあるわけですが、搬入路と、植樹をするということと、それから、最近では漏水検知システムというものがあまして、2重シートの中に電極を敷設しまして、万が一、シートに1カ所穴があいたというような場合については、漏れた状態がすぐわかり、漏れた箇所もわかるというものを敷設します。これは一例ですが、こういうようなものを敷設して対応するというものも検討しております。

それから、方法書の選定ということで、環境影響評価の項目の選定なのですが、ここに挙げたように、稼動時とその前の造成時と大きく二つに分けて設定しております。

それで、悪臭につきましては、当然、埋めたごみ等で悪臭が発生するということが予想されますので、稼動時と、工事中は発生しないということで考えております。

それから、地形と地質については選定していませんが、この一帯が泥炭地質でして、特に特筆するものではないということでございまして、選定しておりません。

景観につきましては、工事中については問題ないのですが、実際に埋め立てますと、最終的には12メートルぐらいの高さになるということがございまして、一応選定させていただきます。

廃棄物等につきましては、工事中に廃棄物が出ることが考えられますので、選定させていただきます。埋め立て中については、ごみは埋めるのですけれども、ごみは出ないという発想をしております、選定はしておりません。

温室効果ガスにつきましては、メタンガスを考えておりまして、こちらは稼動時にメタンガスということで考えております。

それから、環境影響を受けるおそれのある範囲の考え方ということでございまして。

こちらについては、敷地境界からおおむね250メートルの範囲を考えております。これについては、環境要素等でいろいろ変わることがございまして、今は調査する前ということで、暫定的に定めたものということでご理解いただきたいと思います。

ただ、調査範囲につきましては、この250メートルの範囲を含めて、さらに大きなエリアで調査を行っていきたいと考えてございます。

それから、これから出てくるのですが、概況把握区域という言葉がございます。この赤で示したのが事業区域でございます、影響を受けるおそれのある範囲を一応250メートルということで設定しているのですが、この大きな四角の部分を概況把握区域と言っております。これについては、影響がある範囲というわけではございませんで、この範囲で試料やデータを集めているというふうにご理解いただきたいと思います。

これから各項目に入りますが、まずは大気質でございます。

環境の現状ですが、先ほど説明したとおり、概況把握区域における篠路一般環境大気測定局では、二酸化窒素の濃度、浮遊粒子状物質の濃度ともに環境基準を満たしているというデータがございます。

それから、福移の小・中学校、あいの里東小学校の方でダイオキシン類の測定を行ったというデータがございます、こちらの方は環境基準を満たしてございます。

大気質の現況調査の考え方でございますが、事業実施区域周辺の一般環境大気測定局、篠路一般環境大気測定局及び気象観測所のデータを対象としまして、現況の窒素酸化物濃度、風向、風速等を把握したいと考えております。

予測評価の考え方ですが、事業実施区域周辺と運搬車両の経路に近接する住居などを予測地点と考えております。予測につきましては、窒素酸化物、粉じん等について予測計算式をもとに行いたいということで考えてございます。

続きまして、騒音・振動等についてはですけれども、環境の現状としましては、概況把握区域では国道337号線で自動車交通騒音の測定を行っております。これにつきましては、騒音の環境基準値を満たしているというデータがございます。

こちらの現況調査の考え方でございますが、事業実施区域の周辺の住宅を約1カ所程度ということで考えてございます。近くに社会福祉法人等もございますので、その辺を考慮しながら検討してまいりたいと考えてございます。

道路の交通の方ですが、搬入経路をかんがみまして、こちらの方も周辺の一番近い住宅地を1カ所程度調査するというように考えております。

調査につきましては、今のところ、交通量、天候が安定しやすい秋ということで考えております。

予測評価の考え方ですが、こちらにつきましては、近接する住居を予測地点に考えたいと思います。

予測は、騒音・振動について理論式を用いた予測計算等を行っていきたいと考えてございます。

続きまして、悪臭でございます。

悪臭についての現状の調査のやり方の考え方としましては、実際の埋め立て対象物は焼却残渣と不燃物ということでございまして、悪臭についての現状を把握するために調査を

実施したいと考えております。こちらにつきましては、周辺の住居等を調査対象にしたいと考えてございます。

悪臭物質については、アンモニア等22物質、臭気指数、官能試験法について、一番においが出やすい夏に1回程度行っていきたいと考えてございます。

予測評価の考え方としましては、事例の収集等により定性的に行っていきたいと思います。事例の収集というのは、既設の埋立地、山本と山口で同じような状況がありますので、こちらの方の事例等を収集しまして定性的に予測していきたいと考えてございます。

続きまして、水質でございます。

水質につきましては、環境の現状といたしましては、概況把握区域では、伏籠川や豊平川などで水質調査が行われたというデータがございます。この中では、人の健康の保護に関する項目につきましては、伏籠川で、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が平成14年に1回超過していますが、その他の地点及び時期では環境基準を満たしているというデータがございます。また、豊平川では、大腸菌郡数が環境基準を超過することがあるというデータがございます。豊平川の中沼における水のダイオキシン類の濃度は環境基準を満たしているというデータがございます。

それで、現況調査の考え方でございますが、埋立地からの浸出水、汚水については、公用水域へ直接放流するという事は考えていませんので、先ほどもご説明したとおり、下水道の方で処理するという計画でございます。

ただ、工事中に発生する濁水については、沈砂池等を設けて、篠路第1支線排水に排水するような形になると思いますので、水質の調査を行いたいと考えてございます。

水の汚れのBODを季節ごとに4回、水の濁りSSを降雨時及び平常時に行いたいと思います。それから、有害物質等についても、健康項目とダイオキシン類等を湯水期に行いたいと考えてございます。

それから、予測評価の考え方ですが、造成工事の方法等、それから事業特性を踏まえた上で、発生する負荷により変化する河川水質の程度を予測していきたいと考えてございます。

続きまして、地下水です。

環境の現状としましては、概況把握区域では地下水の水質調査が行われています。そのうち、トリクロロエチレンが環境基準を超過しているところが1地点あるということがわかっておりますが、地点まで公表されていませんので、その辺はわかりません。その他はすべて環境基準を満たしてございます。

また、残存する湿地にカラカネイトンボやオオミズゴケなど特有の動植物が生育していることがわかっております。

それから、現況調査の考え方ですが、大きく地下水質と地下水位の二つに分けて調査を進めてまいりたいと考えてございます。浸出水、汚水については下水道に放流する予定ということでございますけれども、現状の地下水質を把握したいと考えておりまして、事業

実施区域及びその周辺においてボーリング孔を設置して、採水して、試験を行いたいと思います。事業実施区域内で3点ほど、それから周辺で1点ほどを予定しております。

地下水の水質は、人の健康保護に関する項目及びダイオキシン類、豊水期と渇水期と想定される時期にそれぞれ1回ほど行いたいと思います。

それから、地下水位ですが、事業実施区域及びその周辺においてボーリング孔を設置して、土質試験、透水試験等を行いたいと思います。また、自記水位計を設置して水位の変動を把握したいと考えてございます。それで、事業実施区域内については3点ほど、周辺に1点ほど考えています。

また、このほかに、特に事業実施区域内に簡単なボーリングを数点行いまして、水位同時観測を行うことによって、地下水の流向を把握していきたいと考えております。あの辺の湿地への影響等を考えますと、地下水の流向がどのように動いているのかということ把握したいと考えております。まず、事業実施区域内で数点、簡単なボーリングをして水位をはかって、流向を確認しまして、それから周辺についても次の段階で調査を進めていきたいという形で考えてございます。

予測評価の考え方ですが、事業の実施により変化するであろうと予測される地下水の流れについて、現地調査結果に基づく計算式等を用いて予測していきたいと考えてございます。

続きまして、動植物でございます。

動物の現状としましては、概況把握区域では、既存の資料によりますとオオジシギなどの重要な種が確認されておりまして、そのほか、鳥類6種類、魚類4種類、昆虫8種類が確認されているという資料がございます。

それについての調査、頻度、時期についてでございますが、哺乳類トラップ調査、主にネズミ類が対象となるのですけれども、繁殖期の6月と9月ぐらいの計2回です。それから、痕跡調査ですが、こちらは6月、7月、10月、2月の4回です。それから、コウモリ調査ですが、主に活動期、繁殖期と思われています7、8、9月ぐらいに行っていきたいと考えてございます。

鳥類についてのラインセンサス調査は、5月、6月の繁殖期に前期、後期と、それから10月の秋の渡りの時期、それから越冬期の2月の年4回行います。定点調査につきましても、同じく5月、6月、10月、2月に行います。それから、猛禽類の調査につきましても、繁殖期に4回程度、5月、6月、7月、8月に行います。

それから、両生類については、産卵期と幼生期ということで、5月、7月の約2回です。

爬虫類につきましても、直接観察ということで、多分、活発に活動するであろう暖かい時期の8月ぐらいに1回行いたいと考えています。

それから、魚類の捕獲調査につきましても、6月の産卵期と9月にもう1回です。

昆虫類につきましても、捕獲調査としまして、6月、7月、9月の計3回です。ベイトトラップ調査につきましても、同じく虫が一番活動し出す6月、7月と9月です。ライト

トラップについても同じく計3回です。

それから、底生動物につきましては、定量・定性採集ということで、5月の羽化前の時期、それから7月と9月の計3回を予定しております。

予測評価の考え方としましては、動物の重要な種及び注目すべき生息地について、分布状況、広域的観点から見た改変の程度など、科学的見地や類似事例等を参考にして予測したいと考えてございます。

続きまして、植物です。

環境の現状としましては、概況把握区域におきまして、オオミスゴケなど重要な種6種類が確認されているという状況でございます。こちらについての調査ですが、植物相ということで、5月、6月、7月、それから9月の計4回です。組成調査は8月、それから植生区分図の作成等を考えてございます。

予測評価等の考え方につきましては、動物と同じような考えということでございます。生態系です。

環境の現状として、ここは大きく五つに分かれると考えております。概況把握区域につきましては、河川沿いの樹林、耕作地の草原、湿地等の草原、河川や湖沼、市街地及び造成地に大きく区分されると考えてございます。

現況調査の考え方ですが、文献調査、動物及び植物の現地調査結果から、動植物の生息、生育の場となる地形、生息状況等について整理したいと考えてございます。

予測評価の考え方ですが、事業実施区域周辺における注目種の子な生息環境の分布状況、広域的観点から見た改変の程度、こちらも科学的知見や類似事例を参考に予測評価してまいりたいと考えてございます。

景観ですが、この地区の眺望点として、モエレ沼公園、そのほかに丘珠の空港展望ロビー等がございます。

現況調査の考え方としましては、主要な眺望点であるモエレ沼公園で調査を行いたいと考えてございます。調査は、四季それぞれで行い、写真撮影より眺望景観を把握したいと考えております。

予測評価の考え方としましては、主要な眺望景観について、完成予想図、フォトモンタージュ等の視覚的な表現方法により予測したいと考えてございます。

人と自然の触れ合いの活動の場ということでございますが、現状としましてはモエレ沼公園、サッポロさとらんど等がございます。

現況調査の考え方としまして、主要な人と自然の触れ合いの活動の場であるモエレ沼公園及びサッポロさとらんどにおいて、現地調査により利用の状況を調査したいと考えてございます。

予測評価の考え方ですが、事業の実施による改変、利用性の変化、快適性の変化を予測評価したいと思います。本事業により、人の触れ合いの場に直接の改変やアクセスルートの改変は行わないことを想定してございます。

廃棄物ですが、環境の現状としましては、近くには、すぐ横に篠路清掃工場がございます。東側にはリサイクル団地等があります。

それで、調査の手法としましては、工事の実施に伴い発生する廃棄物の種類、量及び排出形態並びに処理処分の方法等について整理したいと思います。

予測方法につきましては、建設工事に伴う副産物の種類ごとの発生及び処分の状況等を把握したいと考えております。

現況調査、予測評価の考え方ですが、工事期間中の建設工事に伴う副産物について、事業計画により廃棄物の種類ごとに発生量、処分の状況を把握したいと考えております。

温室効果ガス等、ここではメタンを対象にしていますが、調査の手法としましては、発生源となる埋め立て対象物についての組成の状況等を把握したいと考えております。

予測の方法としましては、事例の引用もしくは解析により行いたいと思います。

現状調査、予測評価の考え方ですが、埋め立て物の組成の状況を把握しまして、温室効果ガスの発生の程度について、事例の収集等により定性的に予測したいと思います。事例の収集というのは、これも既存の山口とか山本の処理場のごみ組成、もしくは実際に出ているメタンガス等の状況を把握しまして、定性的に予測をしてみたいと考えてございます。

以上でございます。

村野会長 説明、お疲れさまでした。

それでは、ここで休憩を10分ほどとりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

村野会長 それでは、3時20分から再開いたします。

[休 憩]

村野会長 時間が参りましたので、審議を再開いたします。

休憩前に、環境アセスメントの方法書に関する手続、あるいは方法書の内容について説明をいただきました。方法書に関してのご意見、あるいは手続等に関するご質問などをあわせて、どこからでもいいですから、時間の許す限り、論議を重ねてほしいと思います。

時間については、今は3時20分ですから、この審議に1時間程度充てることができると思いますので、その範囲が来ましたら、そこまでの論議でもって収束に向かっていきたいと思います。限られた時間なので、充分論議できるわけではないと思いますので、それは次回等につなげていくようにしたいと思います。

それでは、委員の皆さん、どうぞご質問、ご意見をよろしくお願いします。

富士田委員 平成8年に、この場所を次期埋め立て予定地と委員会で決めたというお話がありまして、その理由もお伺いしました。ただ、すぐ隣に篠路福移湿地がございますので、私としては承服しかねるというのが今の意見です。場所を変えるということはありません。

ないのですか。その委員会の決定はもう覆せないのですか。ごみを埋め立てる場所はここしかないのですか。

黒河課長 会長、事業者の方に説明を求めてよろしいでしょうか。

村野会長 よろしく申し上げます。

事業者（小林部長） 今のご質問でございますけれども、平成8年に決定いたしましたのは、市の内部で決定しております。先ほどちょっと説明をいたしましたけれども、市の全体の土地利用とか地形を調査いたしました中で、13カ所、候補地を選定いたしました。その中から、いろいろな長所、短所がございますけれども、最も適した地域として4カ所選定いたしまして、その中から、さらに土地の利用状況や周辺の状況等を踏まえて、この土地を候補地として定めたということでございます。

これは、埋立地の計画から事業化まで非常に時間がかかりますので、ほかの候補地にすぐに移るとするのは非常に難しいと思います。この候補地について、これからいろいろな環境影響調査をした中で、事業のあり方について、あるいは地元の方の理解についてこれからいろいろと進めていかなければならないと考えてございますけれども、今段階では、ここを事業予定地としていろいろな準備を進めていきたいと考えてございます。

富士田委員 ということは、これからアセスのいろいろな調査をした結果、ここはやりますまいのではないかとということが明らかになったときは、違う場所にかわるということですか。

事業者（小林部長） 今段階でそのような見通しについて言うのは、ちょっと誤解を招く可能性があるのですが、どんなことにするということはちょっと言えませんけれども、環境影響あるいはその保全策について十分調査検討した上で、いろいろな方法について考えたいというふうに思っております。

松田委員 3点ほどお聞きしたいと思います。

富士田委員の意見に関係すると思うのですがけれども、仮にこのごみ処理場ができて、20年ぐらいたつと埋まるわけですね。その後はどういうふうに考えられているのでしょうか。

それから、この場所をどうするのでしょうか。公園のようにするのかどうかということも含めて教えてください。

3点目は、それらに関連して、今も話が出ていた湿地を中心とした、俗に言う貴重な動植物がいる場所を、今後、どういうふうに保全していくのかという考え方です。まず一つは、所有者はどこなのかということをお聞きしたいのです。

この3点は、ひょっとしたら密接に結びついている面が多少あるような気もするので、その辺の大きな考え方をお聞きしたいのです。

事業者（小林部長） ここは、今、年数的には9年間前後ということで考えておりまして、その先でございますけれども、具体的にどこにすべきかということは考えてございません。

ただ、今、ごみの減量、リサイクルをいろいろと進めていく中で、埋め立て量をできるだけ減らしていきたいというのは私どもの施策の基本でございます。それにしても、最終的に埋め立てしなければならない廃棄物が残りますので、これは、この北部事業予定地が終了する先についても何らかの埋立地を確保していく必要があるのかなと思っています。具体的に、今現在検討しているところがあるわけではございません。

それから、湿地の保全につきましては、これから環境影響評価をやっていく中でどういった影響があるのか、それから、その影響によってはどういった保全策が考えられるのかということ踏まえて検討していきたいと考えてございます。

松田委員 もう一点は、この場所は埋め立てた後、どういう運用をするのですか。

事業者（小川課長） それでは、埋め立て跡地についてどうなるかということにつきまして、グリーンベルトの資料を出したいと思えます。

これは、札幌市全体の環状夢のグリーンベルトの絵ですが、ご存じのように、札幌市の南区、豊平区、西区等につきましては、山、山ということですずっと緑に囲まれています。一方、石狩平野の北部、白石区、あるいは北区等の平地につきましては、いわゆる平野で山などはありません。そして、昭和55年に環状夢のグリーンベルトという構想を打ち立てまして、白石区米里地区、北区方面、北部緑地、手稲山緑地、藻岩山緑地、石山緑地、各緑地を名称づけまして、その中の野幌あるいは米里緑地につきましては、先ほどから再三名前が出ています山本処理場の埋立地ですが、ここに夢のグリーンベルト発祥の地という記念公園がございまして、ここで昭和59年にグリーンベルト構想が始まりました。

それは、緑で囲んでいくのですが、そのときに、いわゆる単なる公共残土、あるいは土で山をつくるだけではなくて、基盤整備をごみ等で行いまして、埋め立てが終わった暁には、公園造成をして、そして緑にしていくという計画を立てました。

今申し上げましたように、山本につきましては、今、発祥の地という公園が一部ございますけれども、現在も埋立地として使っています、先ほどから説明しているように、あと10年ぐらいの寿命であり、その後については公園造成に移っていくのかなと思っています。

一方で、そこに手稲緑地というものがございます。手稲緑地には山口処理場がありまして、今、第3山口を埋め立て処理場として使っていますが、その手前の山口処理場を当時埋め立てで使っていました。これが、平成17年から平成25年までの計画で、いわゆる緑地公園計画がスタートしております。

これが完成予想図でございますが、やはり、散策路からパークゴルフ場から緑地計画がなされてございます。

先ほどの絵に戻してください。

北部緑地の中に入っております現在の（仮称）北部事業予定地でございますけれども、約12メートルの高さで埋め立てが完了して、その約25ヘクタール部分につきましては台形の土地になります。それが、最終的には公園緑地になって、緑で覆われていくという計画でございます。

先ほどの質問からずれている部分もあろうかと思えますけれども、一応、そういう計画でございます。

以上です。

松田委員 基本的に公園になるということなのですね。

結局、それ以前の埋立地は多分違ったと思うのですけれども、最近の埋め立ては全部公園にしているのだということですか。

事業者(小川課長) モエレ沼公園もそうです。

松田委員 ですから、次はどこだというのはここでは言えないのですか。

幾ら減量をやろうと、札幌市からなくなるわけではありません。そうすれば、基本的には大きな場所の計画の中でも、その埋立地をどう使っていくのかという大きな中で周囲の保全を考えていかなければいけないと思います。20年後は、私は生きていないと思うけれども、基本的には札幌市にとっては割と近い将来です。だから、次の候補地というか、サイクルということも考えた上でこういうものを計画されなければいけないと思います。持っただけでもここで言えないのかもしれませんが、必要ではないかというのが私の意見です。その辺も含めてもう少し説明していただくと、わかりやすい気もするのです。

これは意見です。

富士田委員 今の跡地の利活用のお話を聞くと、基本的には公園にするということですが、それにまた物すごい税金がかかるのではないですか。それから、つくった公園を維持管理するのに、また物すごい税金がかかると思うのですが、そこは札幌市さんの方は大丈夫なのですか。

それから、環状夢のグリーンベルトという名前ですけれども、これはグリーンベルトではなくて公園です。つまり、緑の回廊とかグリーンベルトという名称が示しているものは、生物多様性を守るような緑であって、これは私たち人間が利活用する公園だと思うので、名称としては適切ではないと思います。

こうやってどんどん公園がふえていったときに、維持管理費の面で大丈夫かというのはどうなのですか。

事務局(小林部長) 一応、埋立地の跡地については、地元の方に対する説明も含めて、今のところ、緑地あるいは公園にするということにしております。

今、現実に埋めている山本処理場、それから山口処理場についても、順次、公園化をしていく計画にしております。

これは、先ほどグリーンベルトの説明をしましたがけれども、まず手稲山口の埋立地について、今、一部、公園化を進めてきております。もちろん、埋立地については、公園化をするについても、管理をするについても、モエレ処理場もそうですが、汚水の継続的な監視や処理、それから埋まっているものに対する管理といったものは一定期間ずっと継続をしていかなければなりませんけれども、今おっしゃられたように、非常にお金のかかることでございます。

私どもの基本といたしましては、埋立地をどんどんつくらなくてもいいように、できるだけ減量化をしていきたいというふうに考えております。それから、後々管理をする上でも、有害な物質を入れないような形にしたいなというふうに考えてございます。

現状では、一定の市民生活が行われた上で出てきた廃棄物を環境に負荷を与えないように適正に処理する上では、どうしても一定のお金をかけて埋め立て処分をしなければならないというふうに考えております。

富士田委員 この場所は泥炭地ですね。私は軟弱地盤だと思うのです。そこに、これだけのごみ処理をして、物すごい重さの負荷をかけるわけですから、どう考えても泥炭地は沈下します。先ほど排水の話がありましたが、泥炭地の中の9割方は水なのですけれども、それを排水するような形になるので、必ず地盤沈下が起きますし、地盤沈下が起きて、ここで水を引っ張るような形になると、隣接する湿地の水位も必ず下がると思うのです。それは、これからの調査の結果に基づいてという話ですが、それは今の段階で十分予測できる話だと思います。

それから、地形及び地質という項目が調査項目から抜けていますが、その部分はやらなくていいのですか。

事業者（村田係長） 我々も、周辺に湿地帯があるというのはわかっています、今のお話のとおり、湿地帯に与える影響はどのようなものかということ考えたときには、地下水の流れとか流向を調べて影響を考えたいと思っております。

地質の話につきましては、地質自体は泥炭層で、どこにでもある泥炭ということですが、法的に、地質、地形については、何千年前かの火山地帯というものがある場合は調査するという話になっていますが、これは泥炭層ということでわかっていますので、その部分は項目から外したということでございます。

深見委員 先ほど富士田委員からお話がありましたけれども、泥炭地で、工法的に最初にプレロードかけるからその部分は沈下しないということでやっているようではけれども、例えば地盤沈下というのは、泥炭の真ん中のところで排水していけばその影響は必ず出てくるはずで、地盤沈下は周辺に影響する可能性がある、見なければいけないのではないのかというのが一つあると思います。

地形、地質はすごく重要なものがあるかないかは私はわかりませんが、泥炭というものが物すごく重要だと言う人も中にはいますから、その点は私としては何とも言えません。ただ、地盤沈下のことはちょっと考えた方がいいのではないかと思います。

事業者（小川課長） 地盤の沈下ということですが、当然、泥炭地ですから、先ほど方法書の中でも、余盛り、プレロードをかけて圧密する、いわゆる地耐力を得るというふうな説明をさせてもらったと思います。それが、今度、いわゆる事業用地、埋め立て用地の中の地耐力は得たけれども、地下水の変動等で約600から700メートル離れたところの湿地等に水位の変動等でどういう影響を及ぼすのかということにつきましては、これからの環境影響評価の中で、水位の変動、地下水の流向をつかみながら評価をしていき

いと考えてございます。

今、こういう影響があるので、こういうふうな対応をしますということではなくて、今後、そういった調査をしながらやっていきたいと考えてございます。

岡村委員 先ほどの地形、地質の調査をしなくていいという説明は、私もおかしいなと思っていました。地形、地質と景観というのは一体のもので、ああいう地域の低平な景観というのは、泥炭、あるいは平地の地形が作り出しているのです。それをどこにでもあからといたら、火山だって日本のどこにでもあるわけですから、そういう問題ではなくて、あの地域にはあの地域の特徴のある地形と、それに基づく景観があるわけですし、それに対する影響は当然出てくるので、どんな影響が出てくるかということは、ほかの動植物などと同じように調べる必要があると私は思います。

事業者（小林部長） 地盤沈下、地形、地質の調査の必要性については、ただいまのご意見などを踏まえて、改めて検討させていただきたいと思っております。

村井会長 どなたかありませんか。

石川委員 何点かありますので、一つ一つ確認させていただいて、お尋ねしたいところは都度お答えいただければと思います。

まず、埋め立て対象物についてなのですけれども、不燃ごみ、焼却残渣ということで、これは市の方で回収された一般ごみということで、特に札幌市の事業であっても受け入れるものはないということによろしいのですね。いわゆる、市民の方が出して収集したごみだけを入れるという理解でよろしいですか。

事務局（小林部長） 埋め立て対象物ですけれども、言い方として、可燃物とか生ごみを入れないという意味の不燃物でございます。現在埋めておりますのは、各家庭からごみステーションで収集した燃やせないごみでございます。それから、各事業者、札幌市の事業でもそうですけれども、事業系の燃えないごみですね。今は、品目的に事業系の燃えないごみで受け入れているものは、ガラスくずと陶磁器くずと燃え殻だけでございますが、これも含めまして、それから、市の焼却灰とリサイクル施設からの残渣、今想定しているものについてはそういったものでございます。

石川委員 有機物ではないのですけれども、札幌市の浄水場で出ます浄水の汚泥がございますね。それについては、受け入れる予定はないということによろしいですか。

事業者（小林部長） そういった産業廃棄物の汚泥については、現在も受け入れておりませんし、今後も受け入れる予定はございません。

石川委員 わかりました。

次に、このペーパーの3ページの施設イメージですけれども、これを見せていただきますと、右の方に浸出水集水管ということで、先ほど見せていただきましたシートを突き破って反対側にポンプを入れてくみ出すということになっています。これは、最近はどういう形で浸出水を抜くような形のものが多いのですか。

事業者（村田係長） このイメージ図はちょっと古くて、あの状態だとシートを一回突

き破って外に出ている感じですが、今は、シートの中に貯留池を設けまして、そこで一回ためたものをポンプアップして外に出すという形で計画してございます。

石川委員 準備書の前段階とはいえ、委員の皆さんに見ていただくものですから、ご存じない方はご存じないかもしれませんが、余りえっと思うようなものは出さないように気をつけていただければと思います。

これは、市民の方にもこの絵で説明していらっしゃるのですね。

事業者（村田係長） そうです。気をつけたいと思います。

石川委員 先ほど、既に住民説明会をされているということですが、もしよろしければ、主要な意見をちょっとお聞かせいただければ、この先のご質問の中で確認したいと思うのです。

事業者（村田係長） 先週の金曜日まで意見聴取をしまして、現在は取りまとめ中でございますので、取りまとまった段階で改めてご報告差し上げたいと考えております。

石川委員 わかりました。

雨水関係なのですけれども、浸出水と雨水を拓北下水処理場へ送って処理するということですね。そこで、確認したいのですけれども、現在の拓北下水処理場の能力と現在の流入量がどのくらいになっているのか、日量でも結構ですが、お知らせいただけますか。

事業者（村田係長） 下水との正式な協議は今後ということになるのですが、事前協議の中では、我々の方では日量を1,000トン見込んでございまして、一応、1,200くらいまでは十分いけるということで考えてございます。

石川委員 下水処理場の側で日量1,200トン受けられるということですね。

事業者（村田係長） 篠路清掃工場まで来ている下水管の容量がございまして、この容量から考えて、うちの持ち分が1,200くらいということで協議しております。

石川委員 確認ですけれども、拓北の下水処理場は分流式ということで間違いないですね。

事業者（村田係長） そうです。

石川委員 分流式で拓北の下水処理場を設計されたということであれば、恐らく、時間ピークとしては非常に小さいものしか見ていないと思うのです。今回、拓北の北部事業地は30ヘクタールありますけれども、例えば雨が10ミリ降ると300トン入ってくるということになりますね。確かに、下に行って出してということになると、事業地側で調整槽を持っているのかもしれませんけれども、処理場の方としては非常に負荷がかかるのかなと思います。そのあたりで、下水処理場の負担がかからないような方法を事前に検討していただく必要があると思います。

これは環境アセスの範囲になるかどうかわかりませんが、特に分流式であっても、下水道の方ですとご存じだと思うのですが、数年ほど前から、分流式であるにもかかわらず、雨水の浸入が非常に多くて、場合によっては処理量の2倍とか3倍くらい入ってきて、中の汚泥を吹き飛ばして全部出ていくということもあります。当初の設計から外れるような

量の水を入れるということであれば、それはある程度検討をしていただければなと思っております。

あとは、埋め立ての方法なのですけれども、札幌市さんのように大きくなって、しかも無機物ということですが、これは、スルー埋め立てではなくて、層状埋め立てという理解でよろしいですね。

事業者（村田係長） 一応、その計画でございます。

石川委員 それから、何人かの委員がおっしゃっていたプレロードなり地形、地質の件なのですけれども、どこにでもある泥炭には違いないのですが、この場合は、どこにでもある泥炭とは違う可能性がありますので、ちょっとご検討いただきたいと思います。

地下水の水質項目も、通常の地下水の項目だけしか入っていませんで、先ほど確認しましたところ、鉄分が入っていないのですけれども、この泥炭地の地下水は非常に鉄分が多いのです。

実は、石狩市さんの方で、開発局さんが港湾の浚渫をして、浚渫の埋め立てをされたのです。そのときに、埋め立てた残土を沈殿池のようなものに入れて、水を吐いて処分しようとしたのですけれども、その圧力がかかって周りから鉄分が吹き出してきて、石狩湾新港が半分ぐらい真っ茶に染まったということがあったのです。これが何回か続いて、開発局さんの方でも排水の処理について若干検討されたのですが、困ったことに、その鉄分の中に砒素が一緒に入ってきて、結構な濃度になるのです。それについては、地形、地質として、どういう地層でどういう水が出てくる可能性があるのかというのを事前におはかりになった方がいいだろうと思います。

地下水のモニターについて、これはまだ方法書の前段階なので、特にモニター井戸をどうするのだということで、既存の井戸の位置が来ておりませんでしたけれども、できましたら、既存の井戸に影響がないかどうか、使っている井戸なり観測井なりを確認した上で、そこに影響がないかどうかということは確認された方がいいと思います。

それから、交通についてです。

通常、環境アセスとしては騒音・振動の話があるのですけれども、今、あそこの場所は道路が非常に狭いです。将来的に道路が広がるだろうということを計画されているとは思いますが、あそこの小学生の方たちは、アームのようなもので保護された歩道だか車道だかつかないところを歩いて学校まで行きます。そこに運搬車両がふえるということになると、あのあたりの住民とか学生の方に非常に危険なのかなと思います。バスが通っていても非常に危ないなと思って見えています。ですから、騒音・振動だけでなく、ある程度の交通量の予測についても検討していただいた方がいいのかなと思っております。

それから、7ページ目の大気汚染についてです。

これは、太田副会長がご専門なので、余り言うと怒られるかもしれませんが、大気測定局が事業地の西側、海側にあるのですけれども、実際にこのあたりは石狩湾の方から吹いてくる風が多いのかなと思うのです。反対側は、江別市さんになるのですけれども、一部、

モエレ沼のわきに住宅街もあるので、観測所については、別途、反対側も検討しておく必要があるかなという気がしております。それは、風向、風速を確認の上、ご検討いただければと思います。

それから、13ページの魚の関係です。

あのあたりの魚の産卵期は、6月で大丈夫かなという気はするのですが、産卵していないにしても、動き始める5月の中旬、下旬ぐらいからかけた方がいいと思います。6月ということで限定しない方がいいような気もします。あその魚はそんなにすごいものは出てこないと思いますが、時期的にはちょっと前倒しをしていただいた方がいいかなと思います。

それから、松田委員がおっしゃっていたように、9年ということで、長いようで非常に短い時間ということであれば、今ここで話せないということがあるのかもしれませんが、そういう流れの中で、ここを第1番目に、次にはこういうところを考えているという位置づけの話をいただければなと思います。今回はここでもいいのかとか、逆にある程度流れがあればこっちが先の方がいいのではないかという意見も出るかと思っておりますので、できれば、そういうことをご説明いただいた方が、今後のことを考える上でもありがたいなと思っております。

項目がたくさんあって申しわけないのですが、以上です。

村野会長 ありがとうございます。

事業者（村田係長） まず、搬入路の件です。

先ほどもちょっとお話し申し上げたのですが、この通りが狭いというお話ですけれども、今、環状線の拡幅工事を行ってしまして、こちらの篠路清掃工場ぐらいまで広がってきております。将来的にはずっと広くなるということがございますので、多分、これが順調に稼働したときにはかなり広い道路になっていると思います。

そういうことも考えて、搬入路はこの通りから篠路を経由しまして、篠路の計量所をくぐって入ってくるということを考えてございます。

太田副会長 1日何台ぐらいですか。

事業者（村田係長） 今のごみの量で考えますと、燃やせないごみの日というのは、ご存じだと思うのですが、水曜日とか木曜日に集中しておりまして、通行が多いときと少ないときがございます。多いときで200台とか300台の車が入ることもございますし、ないときは全然入らないということもあります。

事業者（小林部長） 先ほどお話がございました魚類の調査時期や観測局の選定については、検討させていただきたいと思っております。

それから、埋立地といいますが、最終処分場を含めた全体の将来にわたる考え方と、その中で北部事業地の位置づけが説明されるべきだというお話がございましたけれども、私もそのとおりだと思います。ただ、残念ながら、今、埋立地は、実際に候補地を選定して、いろいろな調査をやり、土地を買い、環境アセスメントもやり、地元の方の理解も得

て着工して使えるまでには恐らく20年近く、場合によっては無限に時間がかかる可能性もございます。本当は、早い時期にその先の処分場、あるいは、まちづくり全体の中での位置づけもすべきだと思いますけれども、手元に持っていて言わないのではなくて、残念ながら、今のところはないというのが実態でございます。将来のことについては、早く検討したいというふうに思っています。

松田委員 大変なことはわかるのですが、少しでも先を考えるとということが一番大切だと思うのです。土地として、今のような埋め立ての形態であれば、おのずから限られるわけですから、ほかの技術開発をしているのか、これからするのかということもあると思いますけれども、例えばこの地域は下手すると隣接するということもあるわけですから。逆にいえば、隣接を考えて土地取得を今後進めるとということもあり得るわけですから。

私は、そうすると、ここ全体の湿地の方も含めて後で計画が立てやすいのではないかとということも含めてお聞きしたいのです。

これは、ほかの問題もそうだと思いますけれども、やはり長期的なビジョンが一番大切なのではないかと思えます。やれることとやれないことがあると思えますけれども、いろいろな問題をその場しのぎの対処療法ではこれからは絶対いかないわけですし、環境都市を目指すのであれば、まさにその辺のことが一番根本に必要なのではないかと思えます。

そのためには、ただごみを減らすということも、個人ばかりの問題ではなくて、市全体で何か取り組むべきことはあるはずなのです。だから、それらも含めてトータルのシステムとして場所も含めて考えていくということが、これは言葉で言ってもしょうがないと思えますけれども、何か必要ではないかと思えます。何となく、その場の対処処理の仕事についてここで一生懸命審議をしても、意味がないとは言いませんけれども、やはり、その前の全体の中での位置づけということをなるべくしていただくような形で仕事が進んでいただければというのが正直なところだと思います。

黒河課長 1点、事務局の方から申し上げたいと思えます。

先ほどの自動車の通過量、交通量のお話がありましたけれども、環境アセスメント上は、基本的には交通量に関しては対象としないという考え方をすべきかなと思っております。それは、道路部局が行います交通センサスの中で整理される問題というふうにとらえております。

ただ、埋立地がここに設置されることによってごみの運搬車両の数がふえる、それによる大気汚染並びに騒音・振動に対する影響というのは、これは事業者がつまびらかにしなければなりませんので、その予測評価をするということは、やはり方法書の中に書き込んでいただいて、準備書の中で評価していただくということが必要だと考えています。

そういう意味で、事業者としてすることと、他の事業者に依頼していくこと、この部分は準備書に向けて整理をさせていただきたいと思っております。たしか、滝野のときにも同じような議論があったかと思えますけれども、やはり、そのような整理が一番よろしいのかなというふうに考えてございます。

以上です。

太田副会長 私がこちらの交通量を聞いたのは、結局、非常に台数が多ければ問題になるけれども、台数が非常に少なければそれほど問題はないので、定量的な感覚を知りたいという意味でお聞きしたのです。200台ということであれば、1時間に何台かになりますので、大気汚染の観点からいうと、それほど影響がないのかなと思いましたが、それを把握したいという意味でお聞きしたのです。

もう一つ、ちょっと話はずれますけれども、資料の10番目に、影響を受ける範囲として、敷地境界からおおむね250メートルとなっています。産業廃棄物の処理場ですと、大体500メートルになっているのですけれども、これは法的なものがあるのですか。

事業者（村田係長） 本当は、法的な何かがあれば、それをよりどころにしたいところなのですが、残念ながら、今はそういう明確なものはありません。札幌市の産業廃棄物の要綱の中では500メートルというのをうたっていますが、それは法的な根拠が余りないので。

今の250というのは、既存の資料を見させていただきますと、そのマニュアルには、騒音・振動の影響範囲はおおむね250メートルぐらいとあります。それから、猛禽類等の営巣木のコアエリアから250メートルという環境影響技術マニュアルという資料もございいます。そういうものから引用させていただいたのですが、実際は調査をしなければわからない部分があるので、調査してからそのエリアをもうちょっと修正していきたいと考えております。

長谷部委員 騒音・振動のことでお聞きしたいと思います。

今も少し話が出てまいりましたけれども、一般的なことをいいますと、特に騒音の場合は、廃棄物処理場に関しては、一つは搬入の交通の影響とそれに伴う騒音・振動、もう一つは処理場内で重機が動くときの主に騒音、その影響を評価しなければいけません。

今、方法書の中で述べられていたのは、実際には337号の処理場とかなり離れたところでデータを出して、それで環境基準は一応クリアしているというお話をされていますけれども、実際に処理場が建設され、実際に操業した場合に、音環境へどういう影響があるか。それが問題を起こさないような状況であればよろしいわけですが、今の方法書に述べられた地点はかけ離れた場所にありますので、これはちょっとまずいかなと思います。

それから、よくわからないのは、予定地のそばに人家があるのか、実際に人が住んでおられるところがあるのか、それから将来はどうなのかということです。20年、30年オーダーの話ですから、そのときに問題が起こったらちょっと困ります。そういうのを見越した上で、現状を把握し、ここに設備をつくり、操業した場合にどうなるかということの評価しなければならぬと思います。

事業者（村田係長） 今のご質問ですが、既存資料は確かに遠いものですから、調査につきましては、一番周辺の民家に住まわれているのは農家の方もいらっしゃるものですから、そこで調査を行いたい、実測をしたいと考えてございます。

長谷部委員 まだやっていないのですね。

事業者（村田係長） 現地調査は、来年度、19年度の秋以降を考えております。

太田副会長 私は専門外ですけれども、騒音・振動というのは、重機による埋め立てのときの騒音とか、覆土するときの騒音ももちろん予測されるのですね。

事業者（村田係長） そうです。

太田副会長 むしろ、そっちの方が重要ではないかという感じがするのです。

事業者（村田係長） そういう意味で、交通関係の騒音・振動と、一般環境ということで埋立地内の重機が動いたとき等を含めた環境という二つに分けて、それを別々に考えて調査しようと考えております。

長谷部委員 それから、土地の利用計画はどういう見通しなのですか。

事業者（村田係長） ここは、都市計画上是調整区域でございます、基本的には人が住まわれるような、住宅地となるようなところではないと考えてございます。

長谷部委員 それは、数十年後までそうなのでしょうか。

事業者（小川課長） 現在は市街化調整なのですが、人の住む住まないですから、5年後、10年後に市街化区域になるかどうかという予測はしかねます。昔は、開拓から、いわゆる耕作地、畑地、水田等もあったと思うのですが、現在はどんどん原野になってきています。最近の現状をお話しすれば、産廃処理業者とか、運輸業とか、民間業者等が結構入り込んできていまして、住宅地ではないのですが、貸し倉庫業、あるいは建設等の資材置き場、足場等を置いたりということになってきている状況がございます。ですから、近い将来では住宅地になっていかない状況だと考えています。

山舗委員 ちょっとお尋ねしたいのですけれども、動植物の予測評価の考え方として、類似事例を参考にということがあります。この辺について、埋立地にしたということも関係あるのかなと思っているのですけれども、例えば山本の方で調査するということは考えていらっしゃるのでしょうか。

もちろん、もともとが違うのかもしれないですけれども、埋立地にしたことによる動植物に対する影響もあるのではないかと思いますので、その点についてお伺いしたいと思います。

事業者（村田係長） 今まで、山本、山口に埋立地をつくっていますが、それによって自然の状況が壊されたという事例は、私どもとしては認識していません。

ここに書いてある事例は、過去にアセスをやられた埋め立て処分場が全国に何件ありますので、そういうような事例を引用したいということを考えてございます。

山舗委員 わかりました。その点は予想していました。

ただ、私としては、もう一つ申し上げたいことがありまして、埋立地はこれからも継続的にあるわけですから、一回、埋立地にした後は放っておいて、その後は見ていないということがあるのかなのか。もしないのなら、そういうことは必要なのではないかと思います。

埋立地にしたことによってどういう影響があるのか、私も含めてですけれども、余りよくわからない人が多いと思います。例えば、住民にしてみれば、そこと関係ないものは全然見ていないわけなので、その後になんとなったかという情報をいただければ、今後の問題としていいのではないかなと思ったのです。

これは意見でございます。

事業者（村田係長） ただいまのご質問ですが、我々も、今後、特に事後についての必要なモニタリング等はやっていきたいと考えてございます。

それから、これは余談ですが、埋立地をつくった後、鳥に影響を及ぼしたということは余り考えていません。私も、2年くらい前まで山口処理場の場長をやっていましたが、埋め立て処分場の中にキジが入ってきたりするのです。そういう自然環境豊かな状況で埋め立てをやってたということもございまして、埋立地があるから鳥が生息できないということはないと私は思っております。

坂入委員 水質の汚染について聞きたいのですけれども、この評価書では基準値がたくさん載っていますが、現状の値はほとんど載っていないように思うのです。これから稼働したときに、汚染の状況というのは着工前と比較して判断されるのか、それとも基準値を超えていなければいいのだという判断なのかということを知りたいのです。

それから、18番目のスライドで、浸出水は下水に放流すると説明されていましたが、これも、これは汚染状況などを何も調査しないで流してしまうということなのではないでしょうか。

それから、焼却場の残渣のようなものも廃棄されるということで、札幌市の大きな焼却場はダイオキシン濃度が相当低い値になっていますが、それ以外の焼却場の残渣等も同じように捨てられるのでしょうか。

以上をお聞きしたいと思います。

事業者（村田係長） これは、ちょっと見にくいと思いますが、現状の埋め立て処分場から出ている汚水の水質をはかったものでございます。18年度と15年度と14年度で、人の健康を害するというので、重金属関係20、ここでいう3項目ですけれども、すべて環境基準値以下です。埋立地から出てくる汚水を何の処理しない段階で、すべて環境基準値以下です。

先ほどもちょっと説明したとおり、埋立地の水をごみに触れさせる時間を相当短くして引っ張るという状況できっちり管理していると、こういう結果が出てきます。ですから、処理するなり、下水放流するなりということが決まっておりますが、管理型の埋立地ということなので、これだけを見ると、そのまま流しても環境に影響を与えるものではない状況でございます。

これは、新しい埋立地ですから、今後、さらに技術も発展していますので、水質自体はよくなります。それから、入れる物も限定されますので、水質自体はかなりいい方向でいけるのではないかと考えてございます。

坂入委員 ですから、検査をしないで放流するのですか。

事業者（村田係長） 一応、下水放流なので、下水道の放流規準というものがございまして、基本的にはそれを必ずクリアしなければなりません。ただ、これは下水道との協議になりますが、下水道の方がそのまま流していいということになれば、我々はそのまま流したいのですけれども、1次処理の凝集沈殿だけをやってほしいということになれば、それをして放流するという形になるかと思えます。

坂入委員 基準値との関係はどういう感じでしょうか。

現状と比較してどれくらい悪化するかということの評価するのか、それとも基準値をもとに評価するのか教えてください。

事業者（村田係長） 今おっしゃられているのは、埋立地の汚水のことですか。

坂入委員 汚水というか、周辺の地下水とか、河川とか、いろいろ水質調査をするというふうに書いていますね。

事業者（村田係長） 悪化させる要因は何かということになると思えます。うちの場合は管理型なので、汚水が漏れるという場合は別ですが、漏れない状況で管理して、汚水についてはすべて下水の方に行くということで考えております。あとは、何が悪化させるかというと、例えば工事中に土を盛ったときに雨が降ったりして、それが濁水となるということで悪化する部分があるので、その部分の評価していきたいと考えてございます。

坂入委員 それから、焼却の残渣はどうですか。

事業者（村田係長） 焼却残渣については、札幌市の清掃工場は、先ほど大きい小さいという話があったのですけれども、今はすべて600トンです。昔の厚別工場とか発寒第2という300トンの小さい工場があったのですが、それはとまっていますので、600トン以上の工場になります。当然ながら、基本的にはダイオキシン規準をクリアしなければならないという状況になっております。

高橋委員 簡単な質問ですけれども、先ほどのご説明にありますように、浸出水は必ず下水道に捨てるということですね。そうすると、5ページの環境影響評価項目の選定というところで、水質が施設の存在及び供用のところに丸がついているのですが、これは一体何を評価するのですか。

事業者（村田係長） 今のお話のとおり、稼動時については下水につなぐということで、これは我々の内部でも議論がありまして、当初は、下水につなぐからいらぬのではないかとということで議論したのですが、やはり、先ほどの地質の話ではないのですけれども、やらないわけにはいかないだろうということで入れたのです。

高橋委員 評価項目のところで、何を評価するかということが書いていないです。建設時の降雨時の評価はすると書いてありますけれどもね。

事業者（村田係長） 下水に放流するので、影響が少ないというような一定程度の評価はしなければならないのかなと思えます。ちょっと答えになっていないかもしれませんが、そういう評価が必要かなということで入れさせていただいております。

高橋委員 それは、ちょっと検討してほしいです。私は要らないと思えます。

堀委員 一つお願いがあるのですけれども、冊子をいただいて、地図と絵ばかり見せられていても現場がよくわからないので、できれば、本当の事業予定地の写真を最初に見せてもらったり、プレゼンしてくれるなりしていただきたいと思います。見ないでいろいろな話し合いをすると、想像の中だけなので、現場とずれてくる可能性があるので、それを心配しています。できれば、次からはそうしていただきたいと思います。

13ページの予測評価の考え方というところですが、動物の重要な種及び注目すべき種の生息地について、分布状況、広域的観点から見た変化の程度などといろいろと書いてあるのですが、実際の調査項目とこの中身をつなげるのは、少なくとも昆虫に関してはちょっと難しいかなと思います。

現場のアセスメントで、どういう昆虫がいるかということは、お示しいただいたこういう調査で大体カバーできると思いますけれども、これはこれで必要だと思います。

事前の調査で、これは文献調査だと思いますが、トンボ類が七、八種、希少だということが出ています。多分、これだけトンボが周りにいるということは、それ以上の貴重な生き物がいるということが潜在的に考えられると思います。それが一つです。

それから、これらのトンボのうち、一番問題になるのがカラカネイトトンボで、今、非常に騒がれていると思います。それらを調べるのに、例えばベイトトラップというのは、コップを埋めて、それに落ちる虫を調べるのですが、トンボは落ちません。それから、ライトトラップというのは、夜に光をつけて集めますが、トンボは光に来ません。でも、トンボ以外の希少なものがひっかかると思うのでやるべきだと思いますけれども、実際にトンボを調べる場合は、その前の鳥の項目にラインセンサスやルートセンサスがあります。これは、そこにいるものを、あるルート、あるいは時間を決めて調べるという調査ですが、もしカラカネイトトンボに注目するのであれば、その一番よい時期に個別に考えて、ある程度対象として入れた方がいいかなと思いました。多分、7月、8月ぐらいが適期かなと思いますので、ご一考をいただければと思います。

事業者（村田係長） ただいまのご意見を参考にさせていただきたいと思います。

富士田委員 今の堀委員の話に関連してですが、私はちょっとわからないので教えていただきたいのです。これから調査をやられるところがあると思いますが、すべての調査を1件の会社に発注するのですか。つまり、ここにいろいろな項目があるけれども、それを全部同じ会社に発注するのですか。

というのは、私もこれを見て、生物に関しては余りよくできていないなと思ったのですが、丸ごと幾らでどこかの会社に投げるのですか。

事業者（小林部長） 役所ですから、毎年、契約します。どういう契約方法にするのかということは今の段階では言えませんけれども、基本的には一つの会社に委託することになるのかなと思っております。

ただ、今ご意見があるのであればお聞きして、今後の契約、あるいは発注上の参考にさせていただきたいというふうに思っています。

富士田委員 構造上の欠陥でしょうから、私ごときが言ってもしょうがないのでしょうけれども、調査項目によって、それぞれのアセス会社に得意、不得意があるのだから、適切なところに頼むべきだと私は思うのです。

というのは、方法書に載っている植物の調査データは、私の調査データなのです。私がやりました。それをどこから引っ張ってきて、ここに載っています。見たら、私のデータだとすぐわかりました。

それはいいのですが、アセスの会社の人をがそれをごらんになって、大事な種のところでおオミズゴケを挙げているのを見て、これは何もわかっていない方だなということがすぐわかりました。そういうところに発注していいのですか。私は、方法書を見た限りでは、ちょっと問題かなと思います。

市の方でそういうやり方しかとれないとおっしゃるのであれば仕方ないのでしょうけれども、ある意味、これは構造的な欠陥です。ちゃんとやらないと後に問題が残ると思います。これは意見みたいなものです。

それから、一つ感想を述べさせていただきたいのですけれども、私も札幌市民ですから、ごみを出しています。ごみ処理しなければいけないから、こういうことが発生するのは当然だと思いますし、みんなで考えていかなければいけないと思うけれども、平成8年に決められたこの場所はやはりまずかったと思うのです。今さら変えられないというご説明ですから、これ以上食い下がりませんけれども、篠路福移湿地は、今、日本ナショナル・トラスト協会の方からお金をもらって土地を買い上げている状態ですから、これに対して札幌市は全国へ向けた説明責任が発生したということなので、これから結構大変だと思います。そこは覚悟が必要ではないかと思います。

今はネット時代ですから、多分、いろいろなところから意見が多分入ってくると思います。絶滅危惧種がいるだけでもうるさいと思うのですけれども、それはもう覚悟を決めていただくしかないと思っています。

それから、先ほど山舗委員がご質問なさったのですけれども、私がちょっと心配しているのは、ごみ処理場をつくったときに、カラスやトビやカモメなどが集まらないかどうかということについての評価を、現在つくられているごみ処理場を参考に予測しておいた方がいいと思うのです。

うちは植物園なものですから、カラスがいついてしまってひどい目に遭っていますが、場合によっては、ああいった個体群がごみ処理場の位置によって動くことも考えられます。ここは森林がないので大丈夫だとは思いますが、ねぐらとする場所が篠路の周辺に移動してしまうことも考えられるので、ぜひ調査の内容の中に含めていただきたいと思います。

太田副会長 不燃ごみですよ。

富士田委員 生ごみではないのですけれども、どうなのですか。大丈夫ですか。

太田副会長 その中は、カラスが来るようなものはないのではないのでしょうか。

事業者（小林部長） 不燃ごみなのですから、今、マヨネーズは容器包装のプラス

チックで本当は入らないのですが、それが入っていたりすると、そういうものをつつきに来たりします。

それから、100%分別されていないので、やはり有機物がくっついていたりということを前提にして、有機物が入ってきても問題ないような処分場の構造にしております。

石川委員 工事中の影響評価、工事中の水質ということですが、滝野霊園のアセスのときに、土地の表土の移動で濁水についていろいろ配慮するということでご説明いただいて、こういう方法であればうまくいくだろうということだったのですが、実際には別のところでちょんぼがありました。

こういうアセスでやった工事であれば安心できるので、恐らく問題はないだろうと思うのですが、今、アセスをやっていない工事で、創成川のアンダーパスの工事がありますね。ほとんどの方は知らないと思いますが、あの当初に、創成川を上から下まで全部濁すということで、下流の漁業者の方で大騒ぎになった事件がございました。札幌市の工事なのでこちらも安心していたのですが、ぜひ、そういうことがないように、アセスメント段階で、こういうふうになれば大丈夫なのだとということをいろいろ検討していただければと思います。

ただ、それが使われることになるかどうかは、富士田委員がおっしゃったように、まず前提が行くぞということになればの後ですけれども、そのときにはご検討いただきたいと思います。

それから、先ほど言っていました下水処理場の件については、ちょっと言葉足らずだったのですが、アンモニアだけはべらぼうに濃度が高いようですが、有機物が全然ない水を処理場に入れて、処理場のBOD負荷が下がった段階で、果たして処理場が正常に機能するのかなと思います。そこは、調整槽なりで影響がないということていくか、何らかの評価を見せていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

深見委員 先ほど地盤沈下の関係ですけれども、山本の処理場のところも泥炭地で、今稼働していますが、周辺が沈下していたという影響などはわかっているのでしょうか。

事業者（小林部長） 沈下については、一昨年、実際にそこがどのくらい沈下しているかはわからないのですが、過去に埋めた地形の状況等を測量して沈下の状況を調査しております。もともと、今の埋立地は、沈下しないのを前提にプレロードをすることにしております。山本の時代は、一定量沈下する前提で設計をしております、許容範囲内の沈下をしていたということが、外見を計測した結果、わかっております。

ただ、その沈下はあくまでも埋立地の堰堤内の話でございまして、周りに大きな沈下をもたらしているような状況にはございません。

村野会長 丸山委員、お願いします。

丸山委員 丸山です。おくれて参りまして、申しわけございません。

かなりおくれて参りましたので、ご説明を聞いていない部分もあり、的外れな提案になるかもしれませんが、調査の方法について2点、述べさせていただきたいと思います。

先ほどの調査手法の話ですが、貴重な自然があり、ナショナル・トラスト活動も進んでいる場所がそばにあるというのが、この場所の特徴であると思います。

また、調査の範囲も250メートルと定まっているわけではなく、今回のご提案ということですので、まずは調査の範囲を再検討していただきたいと思います。物理的に何メートルという出し方よりも、何をどう守って調べていくのかという物差しで考えていただきたいのです。コンパスでかいたような250にするというのではなく、複雑な形になっても調べるべきところは調べるという方向性をとっていいかかなと思います。

次に2点目ですが、市民の力を寄せ合うという調査方法があると思います。活動されている団体もあると思いますので、そこと上手に組んで調査をしていくべきだと思います。そして、すでに富士田委員のデータを使われているということですが、市民の中にもしっかりと環境を見ていくという活動を行っている方々が多いと思いますので、その方たちのデータも上手に使わせていただいて、市民全体の力を集結してより確かなものにしていくというような市民参加の調査の方法などもご検討いただければと思います。

以上です。

村野会長 時間も押してきましたので、私から一言お話ししたいと思います。

入り口のところでいろいろ出てきましたけれども、最終処分場がどうしても必要だとしても、どうしてここなのかという素朴な意見が出ました。この背景としては、時代の流れの中で、地形、地質、あるいは景観等を含めて、低平な湿原景観、湿原環境が札幌として非常に貴重な地域であるという認識があるので、できれば、これをもっとふやすぐらいの位置にあるべきだという入り口以前の問題があったわけです。

いずれにせよ、ここにこういう埋立地を設けるということでアセスが始まるわけですが、こういった湿原景観を最も保全できるような基本的な流れがあってしかるべきだろうと思います。当然、ほかにも重要なアセス事項がありますけれども、そういうふうに思いましたので、ぜひ意見に入れていただきたいと思います。

それで、時間が押してきましたので、まだ委員の皆さんはご意見、ご質問がたくさんあるかと思いますが、今回の審議はこれで終わりというわけでありませんで、これから始まるということです。時間の都合もありますので、今までの審議も踏まえて、会議の冒頭に事務局から審議会に提示のありました件について、ここで皆さんのご意見を伺いたいと思います。

三つの提示がありました。一つ目は、審議結果の市長意見への反映の仕方についてです。二つ目は、部会を設置するかどうかについてです。三つ目は、現地視察を行うかどうかについてです。

この3点について、事務局の方で何かお考えがあれば、まずそれを説明していただきたいと思います。

黒河課長 まず1点目は、審議結果の市長意見の反映の方法についてでございます。

条例の定めでまいりますと、諮問は、準備書の中で事業者の環境配慮の内容に関してで

ございます。今回は方法書ということで、調査、予測、評価という、どちらかというと技術的な手法を中心に論ずる方法書に関しまして、答申の手前の中間答申という形態はなじまないと考えております。したがって、方法書に関しましては、審議会意見として文書でいただくのが一番確実で、また流れとしても適当ではないかというふうに考えてございます。

それから、部会の設置についてでございます。

準備書に関しては、審議をしながら意見をもみ上げていくというプロセスがございますけれども、方法書に対しましては、事業者が適切に調査、予測、評価するように、審議委員の皆様から広くご意見をちょうだいするというのがより適当だと考えておりますので、部会は設置せず、審議会で検討いただく方がよろしいというふうに考えてございます。

なお、準備書に至った際には、改めて部会の設置についてお諮り申し上げたいと思っております。

それから、3点目の現地視察でございます。

本案件は、先ほど堀委員の方からもご指摘がございましたけれども、50ヘクタールという大きな面積を改変いたしますので、いろいろ調査手法などを考える上で、ぜひ現地をごらんいただいた方がよろしいと思っております。もしご了解いただければ、4月下旬から5月上旬あたりに、審議する時間も設けながら、現地視察を私どもの方で設定させていただきたいと考えてございます。

以上でございます。

村野会長 皆さん、いかがでしょうか。

特になければ、私の方から、こうしたらいいのではないかとすることを提案いたします。

審議結果の市長意見への反映方法については、審議会意見として文書にして市長あてに提出するということがいかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

村野会長 この作業については、もちろん事務局と協力しながらやることになりまして、その内容等も、事前に皆さんと連絡をとり合いながらまとめていくことになります。

それから次に、部会の設置については、時間がないということもありますし、今回は方法書の検討ということもあります。いずれ準備書の段階では審議会でがっちりやるということもありますので、今回は、部会を設けなくて、とにかく全員で論議していくということはいかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

村野会長 それでは次に、現地視察についてですけれども、これは、どうしても現地を見なければわからないことがありますので、現地視察の機会を設けていただいて、できるだけ参加していただくと。そのほかに、都合をまとめるのも大変でしょうから、個別視察についても事務局で対応していただくということはいかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

村野会長 それでは、そういうことにさせていただきます。

これまでの審議につきましては、本日の時間の都合上、一たん事務局で整理してもらいまして、次回にそれを含めて審議を続けることにしたいと思っております。ただ、非常に忙しい委員ばかりですから、アセスメント手続上、日程的にはかなりきつい状況になると思っておりますので、何度も審議の場を設けることは現実的には困難ではないかと思っております。つきましては、次回の審議会までの間、委員の方から事務局に随時ご質問、ご意見をいただいて、そして事務局は事業者への問い合わせなどをして逐次回答してもらって、あわせてほかの委員及び次回の審議会へ漏れなく伝えていただいて、方法書への意見形成に至ることができるように、審議が少しでも進むようにしたいと思っております。

この点を委員の皆さんにお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

また、事務局も、精力的に事務を進めてくださるようお願いいたします。

それでは、これをもって議事を終わりにして、事務局にマイクをお返しいたします。ありがとうございました。

4. その他

黒河課長 村野会長、委員の皆さん、ご審議をどうもありがとうございます。

今、会長からいろいろご指示をいただきましたので、ご指示どおり進めたいと思っております。

今のお話の中に出てまいりました方法書に関してご質問またはご意見でございますけれども、事務局の方にファックスなりメールなり電話なりでぜひお寄せいただきたいと思います。内容に関しましては、事業者を確認し、意見形成を進めさせていただきたいと思っております。

また、本日の議事録でございますけれども、原稿ができ上がり次第、委員の皆さんにお送りいたしまして、ご確認をいただきたいと思います。

それから、現地視察の日程でございます。委員の皆さん、年度初めで大変お忙しい中ではございますが、私どもの方で精力的に調整をさせていただきますので、ぜひともご参加をお願いしたいと思っております。

それから、次回は、現地視察を審議会として充てることができると思いますが、会議室等に集まっての審議会の形は5月の下旬ぐらいに設けさせていただければなと思っておりますので、改めてご案内をさせていただきたいと思っております。

5. 閉 会

黒河課長 それでは、閉会に当たりまして、環境都市推進部長であります小林の方からごあいさつ申し上げます。

小林部長 小林でございます。

これで本日の環境影響評価審議会を閉会とさせていただきますけれども、一言お礼を申

し上げたいと存じます。

本日は、大変お忙しい中、長時間にわたりまして、ご熱心にご議論、ご意見をいただきまして、まことにありがとうございました。

本案件の審議につきましては、本日が初回であります。この案件に関する環境アセスメントの適切な運用のために、さらにご議論を深めていただき、今後も貴重なご意見をちょうだいしたいと考えているところでございます。

審議の中でもご説明いたしましたとおり、法の規定により、早ければ5月下旬にはご意見をいただく必要があると考えてございます。今後の審議につきましては、私どもも審議の事務局としてしっかり対応していきたいと考えておりますので、委員の皆様方には、大変お忙しいとは存じますけれども、今後ともご協力のほどをよろしくお願いいたします。

本日は、まことにありがとうございました。

黒河課長 これにて、審議会を終わります。

本日は、お忙しい中、本当にありがとうございました。

以 上